

17 期男子バスケットボール部は6月8日を持ちまして引退しました。

私たちが入学した時は人数が少なく、入学した私たち一年生と二年生の先輩が1人で活動していました。少ない人数では勝てないと思われそうですが私たちは日々の練習の積み重ねによって、一年生5人で新人戦の大会で勝ち上がり新人戦本大会出場を決めました。このチームで本大会を決められたのは先生やチームメイト全員が、必死に全力で誰一人諦めず戦い抜いたからだと考えます。本大会では初戦敗退という結果になってしまいました。その悔しさをバネにして二年生では、「新人戦本大会ベスト32、商業大会優勝、工業大会優勝」という目標をチームで掲げました。二年生になり後輩たちも入って、今までとは異なる環境に変化しました。環境は変わりましたが、後輩たちとも上手くコミュニケーションをとりながら練習していました。惜しくも商業大会では準優勝という結果に終わってしまいました。しかしその悔しさから、新チームの士気が上がり「工業大会優勝」という目標を達成することができました。



また新人戦では支部大会で「ベスト8」になり二年連続本大会出場を決め、目標であった「本大会ベスト32」を達成することができました。

三年生になり、インターハイ予選では「ベスト32」を達成することができました。

工業大会では、三年生5人に一年生2人の橘Bチームとして工業大会に出場し、見事二連覇を成し遂げました。

このストーリーは私たち選手だけではなく、指導して下さった先生方や応援して下さった方々が一致団結した結果です。



「今回引退したチームメンバーの言葉」

背番号4 原 柊汰

「私は部活動を通して、生活面での挨拶や礼儀を学びました。試合では、チームでのコミュニケーションを大切にし、たくさんの大会で勝ち上がることができました。またいつかこのチームでバスケができると願って日々の生活を頑張っています。」

背番号5 星野 波輝

「私は練習や試合をする中で、3年間、エースとして責任を感じるが多々ありました。しかし、チームメイトが支えてくれたことでここまで戦い抜くことができました。エースとしての役割を達成できたかはわかりませんが、このチームで3年間バスケをできて良かったです。」

背番号6 村崎 大地

「高校からバスケを始めて、こんなにも上のレベルで戦えるとは思っていませんでした。私はこの3年間で、仲間の大切さやサポートしてくれる人たちのありがたさを実感しました。もっとこのチームでプレイしたいと思えるチームでした。」

背番号7 坂口 裕介

「私が入部した時は、東京都の強豪校と言われるチームと練習や試合を行えるとは思っていませんでした。また私ははじめ、試合で勝利に貢献できるような選手ではありませんでした。しかし、チームメイトや応援してくれた方々、顧問の先生の指導によって、工業大会二連覇や、東京都でベスト32という目標を達成でき、とても感謝しています。」

背番号8 安田 蓮

「このチームから学んだことは、自分で自分の成長に気づくことは難しいということです。また、どんなに不利な状況においても、諦めなければ目標は達成できるということを学びました。私が1年生の頃からキャプテンを務められ、ここまで勝ち上がれるチームになれたのは、チームメイトや先生など、多くの人に支えられて活動してきたからだと確信しています。本当にありがとうございました。」

部活から学んだことや経験を活かして、私たちはこれから先の進路にも全力で取り組んでいきます。

私たちの代が、橘高校男子バスケットボール部として活動することはもうありません。しかし、何も無かった状態から作り上げた私たちのストーリーは後輩たちが繋いでいきます。これからも橘高校男子バスケットボール部の応援をよろしくお願いいたします。試合を応援してくださった方、保護者の方や顧問の先生、試合に関係してくださったすべての方々、本当にありがとうございました。

